

2021年5月14日

各 位

会社名 株式会社 スパンクリートコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 浮田 聡
(JASDAQ・コード 5277)
問合せ先 執行役員管理本部長 武田 喜之
(TEL. 03-5689-6311)

(訂正・数値データ訂正)

「2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の一部訂正について

当社は、2021年2月10日に開示いたしました「2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の記載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。また、数値データにも訂正がありましたので、訂正後のデータも送信いたします。

記

I. 訂正の理由

「2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」につきまして、不動産事業の賃貸用オフィスビル「30山京ビル」を2020年12月1日に国内事業法人1社に売却したことに伴う会計処理について、修正すべき事項が判明したため、提出済みの決算短信を訂正するものであります。

主な訂正箇所は、繰延税金資産の訂正とこれに伴う土地再評価差額金、法人税等調整額の訂正及び付随する各項目であります。この結果、当第3四半期累計期間において、貸借対照表の純資産が113百万円増加、固定負債が113百万円減少、損益計算書の当四半期純利益が26百万円増加しております。

II. 訂正箇所

訂正の箇所には____を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、訂正後のみ全文を記載しております。

以 上

【訂正後】



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年2月10日

上場会社名 株式会社スパンクリートコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 5277 URL http://www.spancretecorp.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浮田 聡
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 井上 卓郎 TEL 03-5689-6311
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

百万円未満切り捨て

1. 2021年3月期第3四半期の業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	2,464	3.0	△205	-	△195	-	232	-
2020年3月期第3四半期	2,392	△26.9	△107	-	△97	-	△42	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	29.88	-
2020年3月期第3四半期	△5.47	-

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	8,263	6,786	82.1
2020年3月期	7,729	6,495	84.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 6,786 百万円 2020年3月期 6,495 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	-	-	8.00	8.00
2021年3月期	-	-	-	-	-
2021年3月期（予想）	-	-	-	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2021年3月期の業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,233	4.0	△239	-	△229	-	171	296.5	22.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(注) 詳細は、添付資料6ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	9,332,400株	2020年3月期	9,332,400株
2021年3月期3Q	1,540,019株	2020年3月期	1,539,019株
2021年3月期3Q	7,793,046株	2020年3月期3Q	7,795,411株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(四半期貸借対照表関係)	6
(四半期損益計算書関係)	6
(セグメント情報等)	7
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間において、新型コロナウイルス禍の影響により日本国内経済が依然として厳しい状況にあるなか、当社の業績は、不動産事業は堅調でありましたが、主力のスパンクリート事業において、床・壁材の出荷数量が減少し、一般向け・住宅向け合成床の売上数量は増えたものの、販売価格が低迷しました。北陸新幹線の延伸による防音壁の出荷数量が堅調でありましたが、売上高2,464百万円（前年同四半期比3.0%増）、営業損失205百万円（前年同四半期は営業損失107百万円）、経常損失195百万円（前年同四半期は経常損失97百万円）となりました。

当第3四半期純利益では、不動産事業の賃貸用不動産の若返りを図るため、2020年12月1日に賃貸用不動産1棟を売却、特別利益990百万円を計上いたしました。また、当第3四半期累計期間の業績及び今後の事業計画を見直した結果、スパンクリート事業について前事業年度及び当事業年度と2期連続の営業損失が見込まれることになったため、当第3四半期会計期間末においてスパンクリート事業に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することが適切であると判断し、減損損失として349百万円を特別損失に計上いたしました。結果、法人税の税効果等を含め232百万円の四半期純利益（前年同四半期は四半期純損失42百万円）となりました。

事業別にみますと、スパンクリート事業は、北陸新幹線延伸による防音壁の販売が順調であったものの、床・壁向けが前第3四半期に比べ減少、一般向け・住宅向け合成床が売上数量は増えたものの販売価格が低迷しました。その結果、売上高は2,232百万円（前年同四半期比3.6%増）の増収、営業損失292百万円（前年同四半期は営業損失206百万円）となりました。

他方不動産事業は、賃貸用不動産の賃料収入が安定収益源ではありますが、賃貸用不動産の若返りを図るために2020年12月1日に賃貸用不動産1棟を売却しております。結果、売上高231百万円（前年同四半期比2.2%減）、営業利益86百万円（前年同四半期比12.8%減）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ533百万円増加し8,263百万円となりました。

流動資産は、1,105百万円増加しておりますが、これは主として、現金及び預金が504百万円増加、売上債権が636百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、571百万円減少しておりますが、これは主として、有形固定資産が556百万円減少、無形固定資産が57百万円減少、投資有価証券が49百万円増加したこと等によるものであります。

流動負債は、266百万円増加しておりますが、これは主として、仕入債務が91百万円増加、未払法人税等が116百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、23百万円減少しておりますが、これは主として、賃貸用不動産1棟売却により預り敷金が45百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、291百万円増加しておりますが、これは主として、期末配当による62百万円減少、四半期純利益により232百万円増加（賃貸用不動産1棟売却による土地再評価差額金195百万円を利益剰余金へ取崩）したこと等によるものであり、当第3四半期会計期間末の残高は6,786百万円となり、この結果、自己資本比率は82.1%（前事業年度末84.0%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、不動産事業は堅調ではありますが、主力のスパンクリート事業において、床・壁材の出荷数量が減少し、一般向け・住宅向け合成床の売上数量は増えておりますが、販売価格が低迷しており、北陸新幹線の延伸による防音壁の出荷数量が堅調であるものの、売上高3,233百万円（前年度売上高3,109百万円）、営業損失239百万円（前年度営業損失128百万円）、経常損失229百万円（前年度経常損失106百万円）と増収減益の予想となり、また、当社は、上記のとおり2020年12月1日に不動産事業の賃貸用不動産1棟の売却により特別利益990百万円を、一方、スパンクリート事業について減損損失として特別損失349百万円を計上した結果、当期純利益171百万円（前年度当期純利益36百万円）の予想となりました。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,808,155	2,312,739
受取手形	84,205	※ 31,399
売掛金	698,043	1,378,532
完成工事未収入金	4,427	12,981
商品及び製品	151,556	96,223
仕掛品	9,027	9,463
未成工事支出金	—	7,965
原材料及び貯蔵品	54,584	47,715
その他	39,592	58,202
流動資産合計	2,849,594	3,955,223
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,083,583	930,095
機械及び装置（純額）	184,790	175,275
土地	3,050,478	2,678,136
その他（純額）	153,272	132,108
有形固定資産合計	4,472,125	3,915,615
無形固定資産	79,861	22,436
投資その他の資産		
投資有価証券	272,559	321,802
その他	55,349	48,403
投資その他の資産合計	327,909	370,205
固定資産合計	4,879,895	4,308,257
資産合計	7,729,489	8,263,481
負債の部		
流動負債		
買掛金	29,820	63,050
工事未払金	58,035	115,989
短期借入金	500,000	500,000
未払法人税等	12,853	129,272
賞与引当金	24,800	12,600
その他	191,374	262,670
流動負債合計	816,883	1,083,583
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	204,782	204,782
その他	212,341	188,631
固定負債合計	417,124	393,414
負債合計	1,234,008	1,476,997

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,295,906	3,295,906
資本剰余金	3,010,369	3,010,369
利益剰余金	436,569	411,356
自己株式	△353,097	△353,097
株主資本合計	6,389,746	6,364,534
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	98,067	132,231
土地再評価差額金	7,667	289,717
評価・換算差額等合計	105,734	421,949
純資産合計	6,495,481	6,786,483
負債純資産合計	7,729,489	8,263,481

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	2,392,582	2,464,096
売上原価	1,995,129	2,161,509
売上総利益	397,452	302,586
販売費及び一般管理費	504,590	507,885
営業損失(△)	△107,137	△205,298
営業外収益		
受取利息	7,278	37
受取配当金	8,016	6,380
仕入割引	1,678	3,032
その他	4,459	3,822
営業外収益合計	21,433	13,272
営業外費用		
支払利息	2,361	2,299
訴訟関連費用	7,500	—
その他	2,228	798
営業外費用合計	12,089	3,097
経常損失(△)	△97,794	△195,123
特別利益		
投資有価証券売却益	50,283	—
固定資産売却益	—	990,594
特別利益合計	50,283	990,594
特別損失		
減損損失	—	※ 349,594
特別損失合計	—	349,594
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△47,510	445,877
法人税等	△4,850	213,056
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△42,660	232,820

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期貸借対照表関係)

※ 四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
受取手形	一千円	9,902千円

(四半期損益計算書関係)

※ 減損損失

当第3四半期累計期間において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	減損損失	
		種類	金額 (千円)
本社(東京都文京区)	スパンクリート事業	工具、器具及び備品	3,436
		ソフトウェア	25,073
		その他	246
宇都宮工場 (栃木県宇都宮市) 岩瀬工場(茨城県桜川市)	スパンクリート事業	建物	58,592
		構築物	60,540
		機械及び装置	175,706
		車輛運搬具	3,953
		工具、器具及び備品	8,421
		ソフトウェア	13,621
合計			349,594

当社は、原則として事業用資産については事業部門を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当第3四半期累計期間の業績及び今後の事業環境の変化を勘案したところ、スパンクリート事業については前事業年度及び当事業年度と2期連続の営業損失が見込まれることになったため、今後の事業計画を見直した結果、当第3四半期会計期間末においてスパンクリート事業に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することが適切であると判断し、減損損失として349,594千円を特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自2019年4月1日至2019年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益 計算書計上 額 (注)
	スパンクリート 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,156,029	236,552	2,392,582	—	2,392,582
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,156,029	236,552	2,392,582	—	2,392,582
セグメント利益又は損失 (△)	△206,660	99,522	△107,137	—	△107,137

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間（自2020年4月1日至2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益 計算書計上 額 (注)
	スパンクリート 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,232,657	231,438	2,464,096	—	2,464,096
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,232,657	231,438	2,464,096	—	2,464,096
セグメント利益又は損失 (△)	△292,085	86,787	△205,298	—	△205,298

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「スパンクリート事業」セグメントにおいて、当第3四半期累計期間の業績及び今後の事業環境の変化を勘案したところ、スパンクリート事業については前事業年度及び当事業年度と2期連続の営業損失が見込まれることになったため、今後の事業計画を見直した結果、当第3四半期会計期間末においてスパンクリート事業に係る固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額することが適切であると判断し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、スパンクリート事業において349,594千円であります。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。